令和元年度 第２号 令和元年 12 月 18 日

佐賀県立佐賀商業高等学校

進 路 だ よ り

佐賀県立佐賀商業高等学校進路指導部

令和元年もあっという間に師走を迎え、残すところあとわずかとなりました。この一年は皆さんにとってどのような年だったでしょうか。それぞれが目標に向かって、努力したことでしょう。特に３年生にとっては大きな決断の時期となり、大変頑張ってくれました。新しい一年もこれまでの努力する姿勢を忘れずに取り組んでほしいと思います。１・２年生は今、やるべきことをよく考え、しっかり実力をつけてください。進路指導室では皆さんの頑張りを応援しています。良い新年をお迎えください。

２学期の進路行事

○２年生は４月から半年かけて取り組んできた「星プラン」の上級学校・職場体験が10月24日に行われました。学校訪問では北九州市立大学と福岡大学を訪問し大学の説明や模擬授業を受けました。職場体験では佐賀市内の企業や施設35か所を訪問し、実際に仕事を体験したり、社員の方に話を聞いたりして、職業の理解を深めることができました。その報告会を11月18日に実施、１・２年生で情報を共有することができました。２年生は自分の進路が、少し明確になってきたのではないでしょうか。

○12月５日に佐賀県産業労働部産業人材課の主催で「高校生向け県内企業合同説明会」が総合体育館で行われました。県内企業106社が参加、体育館で設けられた各社のブースで多くの高校生が説明を熱心に聞いていました。アンケートでも「企業のことを知る良い機会となった」との感想が多くありました。

○12月10日、本校の卒業生を迎えて「卒業生による進路講演会」を実施しました。今年は板垣徹也さん（有限責任監査法人トーマツ勤務）山口久美さん（小糸九州株式会社勤務）山本美咲さん（株式会社戸上化成勤務）浅川茉里さん（佐賀大学経済学部１年生）の先輩から高校時代や現在のことをお話していただきました。４人の先輩方皆さんから「授業中、話を聞く。ノートをとる。提出物を必ず出すなどが大事。」と話がありました。

↑職場体験　諸井会計事務所にて…緊張気味な２年生

↑上級学校・職場体験発表会　スライドが上手でした。

↑卒業生による進路講演会　右側より板垣さん・山口さん
山本さん・浅川さん

←　高校生向け県内企業合同説明会

☆彡　面接は「見られる試験・聞かれる試験」　　進路指導部　西村悦子先生

皆さんはこれから様々な機会に「面接」を受けます。「面接」について麻生塾の徳久先生より講義がありました。

面接試験はパブリックスピーキングであると言われます。改まった場において、限られた時間の中で話し手（受験者）の意図する内容を聞き手（面接官）に正しく伝わるようにすることが必要になってきます。しかし現状は言葉遣いの弊害や、短時間で面接官によい印象を与えることの難しさ、話し手と聴き手の受け止め方の違いといった問題点が見えてきます。

日本大学芸術学部教授の佐藤綾子先生が研究された『好意の総計』というデータがあります。人に与える印象は「表情・態度・動作・しぐさ」が 60%、32%が「声・話し方」、残りの 8%が「言葉」という数値が得られているそうです。限られた面接時間での第一印象は入室して椅子に座るまでの表情や態度で決まるということです。

面接は「見られる試験」です。大事なことは４つ。

１　入室時には面接官の指示に従うこと。その際に必ず返事をすること。
２　挨拶はどの場面で何回するという決まりはない。挨拶は自由。
３　背筋が伸びた立ち姿勢・座り姿勢であること。
４　退室する際には誠意のある挨拶をすること。

１～３の時点で第一印象は決まります。集団面接であるならばなおのこと、入室から椅子に座るここまでの動きで他校生と差をつけなければなりません。日常から気をつけておかなければすぐには身につかない部分です。

最後の４の時点では、合否はほぼ決まっているそうです。それと同時に面接官は「将来の行動予測」をされているとお聞きしました。「うちの会社に入ったら（うちの学校に入学してくれたら）この生徒はきっとこうしてくれるだろうからこの部署に配属させようかな」という予測。

また**面接は「聞かれる試験」**でもあります。志望動機・自己ＰＲ・今までに頑張ったこと。この質問に対する答えは必ず準備をするでしょうが、ありがちなことは丸暗記したものを答えてしまい、面接官に何も伝わらぬまま面接が終わってしまう可能性があるということです。面接で「喋る/ｃｈａｔ」のか、「言う/ｓａｙ」のか、「話す/ｔａｌｋ・ｔｅｌｌ」のか。やはり、面接官に伝えようとしなければいけないのです。「話す」ということを意識して面接の準備をし、臨まなければなりません。

就職試験を終えた生徒に「面接はどうだったか」と聞くと、口を揃えたように「会話のような面接でした」と答えます。これがいちばん怖いのです。パブリックスピーキングができるかどうかを見られているからです。

今できることは、当たり前のことを当たり前に行動し、学校生活の中で部活動の中で意識して動くように心掛けることです。高校三年間で何を思い、何ができるようになったのか。面接官はプロです。あなたたちがどのような生徒であるかをきっと見抜いてくれます。一年後、二年後、希望する進路先に進めるよう準備を始めましょう。

☆彡　大学入試における「小論文」について　　進路指導部　土橋輝也先生

今年度の大学入試における、推薦入試、ＡＯ入試（来年度からは学校推薦型選抜、総合型選抜に変更）が一段落しました。
その中から、本校生徒が実際に受験した大学の小論文について、内容を一部紹介します。紙面の関係で掲載できるのはほんの一部ですが、実際の試験問題は過去のものも含め、進路指導室で閲覧することができます。どのような形式、内容で出題されるのか、一度確認しておくことをお勧めします。

〔佐賀大学経済学部・公募推薦〕

日本語の課題文（４ページ）を読み、問いに答える問題。

問１　ルソー（フランスの思想家）が「一般意志」を必要と考える理由を本文に即して述べる（200字以内）。
問２　ルソーは、少数派が多数派に従う正当性の根拠がどこにあると考えていたのか、本文に即して説明する（400字以内）。
問３　多数決による少数派に対する侵害の可能性を抑え込むことのできる方法や制度について、あなたの考えを述べる（500字以内）。

〔長崎大学経済学部・公募推薦〕

Ⅰ　英語の課題文（２ページ）を読み、問いに答える問題。
問１　他国に比べて日本の若者の留学希望が少ない理由を述べる（150字以内）。
問２　下線部（41語）を日本語訳する。
問３　本文を踏まえ、留学についてのあなたの意見を述べる（300字以内）。

Ⅱ　日本語の課題文（２ページ）を読み、問いに答える問題。
問１「神話」が生まれる理由および「神話」に逃避することについて、筆者がどのように考えているのかを述べる（200字内）。
問２「神話への逃避」に陥らないために、普段からどのようなことを心がける必要があるか、あなたの考えを述べる（450字以内）。

実際に小論文を書くにあたって必要なことは、とにかく多くの引き出しを作ることです。課題文を読んで解答するもの、グラフやデータを読み取って解答するもの、与えられたテーマに対して解答するものなど、出題形式は様々ですが、出題分野は多岐にわたるため、多くの材料を持っていないと答案を完成することはできません。さらに小論文は、自分の意見を一方的に述べるものではなく、論理的に、読み手が納得するような内容にしないと評価されません。

付け焼き刃でどうにかなるものではないので、日頃から新聞を読んだり読書をしたり、テレビのニュースを視聴したりするなど、積極的に情報収集を行って下さい。新聞では特に社説（論説）を意識して読み、内容を要約するなどの練習を積んでおくことが効果的です。また、『現代用語の基礎知識』などを用いて、難しい用語、現在よく用いられる用語などの理解に務めることも大切です。

３年生になってから、ではなく、今、このときから始められるかどうかが今後の進路決定に大きな影響を及ぼすことになります。

☆ 先輩との懇談会2019　☆☆　☆☆　☆☆

12月10日に行った「卒業生による進路講演会」に講師として来ていただいた板垣徹也さんに会社のことをお聞きしました。板垣徹也さんは平成27年３月に本校情報処理科を卒業後、福岡大学商学部に進学されました。大学では会計専門職プログラムを専攻、大学卒業後１年で公認会計士の試験に合格されました。現在、有限責任監査法人トーマツで仕事をされています。

Q：会社のことをおしえてください。

板垣さん（以下　板）：有限責任監査法人トーマツは国内28か所、ニューヨークやロサンゼルス、東南アジアなど50都市に事務所を構えていて、グローバルに展開している監査法人です。私が勤めている福岡事務所には監査部だけでも約160人が働いています。

Q：会社には女性は多いですか？

板：公認会計士の合格者の２割程度が女性です。福岡事務所監査部に勤めている女性は３割を超えており合格者比よりも高くなっています。

Q：現在、どのようなお仕事をされていますか。

板：上場会社を相手に貸借対照表や損益計算書などの財務諸表の記載が適正かを確認し、その数字を保証します。また、数字以外の面でも必要な文章等が適切に記載されているかを確認しています。四半期レビューだと１・2週間程度、期末監査であれば3・４週間かかります。今は入社１年目なので様々なクライアントを担当しており、主に５～６社を担当しています。

Q：公認会計士試験に合格するのは大変ではありませんでしたか？

板：勉強は大変でしたが、将来、いい生活をしたいと思ったので（笑）。大学の友人や後輩も頑張っていたので負けたくない気持ちで頑張りました。また私は長男なので、高難度資格を取得し安定した会社に就職することで両親に少しでも親孝行したいと思っていました。他にも、公認会計士の業務は株式会社の監査はもちろん、監査以外にも税務やコンサルタント、上場支援という業務も携わることができ、様々な業務にチャレンジしたいという気持ちがモチベーションになりました。

Q：どのくらい勉強しましたか？

板：大学２年生からダブルスクールが始まりました（現在のカリキュラムでは大学１年の10月から）。当初は公認会計士試験のレベルの高さやダブルスクールの大変さから勉強に身が入らず、講義の半分は欠席しアルバイトやサークル活動をしていました。しかし、周りの友達が就職活動を始めだしてから、徐々にこのままではダメだと考えはじめ、３年生の６月頃から本格的に勉強に身を入れました。頑張った成果が出て３年生の11月に日商簿記１級に合格、４年生の５月に公認会計士一次試験（短答式試験）に合格しました。８月に２次試験（論文式試験）がありましたが、この時は失敗。しかしどうしても合格したかったため、両親に頼み、大学卒業後も勉強を続けました。大学卒業後５か月、とにかく勉強してその年の８月に合格することができました！

Q：お仕事で大変なことは何ですか。

板：仕事で接する相手はほとんどが重役の方ばかりです。クライアントのことを十分に理解していないと良いアドバイスができないため、常に情報を入手してクライアントの理解に努めています。また会計基準などの法律の情報も更新するように、常に勉強しています。

Q：１日の流れをおしえてください。

板：会社の勤務時間は朝9時30分出勤、定時は17時30分までです。私は大体、朝は8時30分頃に出勤し9時30分まで自己学習をし、18時くらいまで仕事をしています。今は経験を積みたいので、忙しくしています。様々な業務を任せていただきありがたいと思っています。同期は９人。たまに飲みに行ったり、みんなでバーベキューをしたりしています。休日はバレーボールなどスポーツをしています。土曜、日曜、祝日はお休みです。

Q：お仕事は面白いですか。

板：はい。面白い仕事だと思います。クライアントによって違う業種の会計に携わり様々な経験ができますし、普段見られない場所や資料を見ることができます。例えば、巨大冷凍庫・製造現場・倉庫・高層ビル内・ターミナル内に入ること、契約書・稟議書・取締役会議事録等を見るという経験をしました。

Q：将来の夢は何ですか。

板：近い将来の夢は、2年後の修了考査に合格することです。今は公認会計士試験に合格したという「公認会計士協会準会員」という立場です。２年間の実務を経験して、修了考査に合格できれば公認会計士登録ができます。働きながら勉強をしなくてはいけないので大変ですが頑張ります。もっと先の夢としては海外企業の監査に携わりたいと考えています。トーマツには海外にも事務所があり、世界の会社を監査するチャンスもあります。また、海外に工場がある日本の会社でも海外の工場が正常稼働しているかを現場視察で確認するような業務もあります。ヨーロッパはIT技術など企業の技術が進んでいますし、もちろん監査の技術も進んでいます。ヨーロッパの企業の監査を経験することや、逆に東南アジアなどの発展途上国の企業を担当してみたいとも思っています。グローバルに活躍するには語学力（特に英語）が必須です。現在は英語の勉強に励んでいます。会社も資格取得を推進しており、資格取得ができる無料のカリキュラムがあります。私は英語のアプリを利用して勉強しています。

Q：簿記の勉強のコツがあったら、おしえてください。

板：日商簿記２級まではある程度問題のパターンが決まっているので、問題をひたすら解くことだと思います。
あと全体を把握して勉強すること。例えば、原価計算の総合原価計算だったら単純、組別、等級別、工程別と４つパターンが決まっています。その後、等級別だと何パターンの主な計算方法があるのかを理解した上で問題を解いていくと理解しやすいと思います。

Q：高校時代は男子バレーボール部に所属していましたね。勉強と部活動を両立させる工夫は？

板：特別なことはしていませんでした。授業をまじめに聞きノートをしっかりとる、提出物をちゃんと出す、わからなかったところは聞いて解決するなどしていました。テスト期間１週間前には部活動で勉強時間を設けていたためその時間にノートやテキストを見直して勉強していました。

Q：最後に母校の後輩たちへメッセージをお願いします。

板：やりたいことを見つけてほしいです。また自分を成長させるようなことを毎日、続ける。自分で「これ！」と決めて15分でいいから、取り組む。例えば簿記の仕訳を1日15分間する。それを3日間やってみる。3日間できたら1週間頑張ってみる。そうしたら毎日するようになります。毎日継続して行うことが大切なんです。1番やってはいけないことは1日に1時間やったから、残りの2日間をしないということ。少しの時間でいいから毎日することが大切です。
また、進路に困っている人は先生や先輩OB、OGにたくさん聞いてみることや体験入学等に積極的に参加してください。そして最後は、両親や先生等が言ったからではなく、**自分の意志**で進路を決めてください。
みなさんが自分の意志で決めた進路に無事進めることを願っています。

公認会計士になるためには…高校、大学、専門学校で簿記を学習後、公認会計士筆記試験（毎年実施）に合格。その後、監査法人や会計を専門的に行っている企業に就職して２年間の実務を経験し、日本公認会計士協会が行う修了考査（筆記試験）に合格すれば公認会計士として登録することができる。

←体育館でお話をしてくださった板垣さん。

公認会計士の試験に合格するために朝の８時から夜10時まで大学の自習室にこもって勉強をしたという板垣先輩。とても自信にあふれ、堂々とした話ぶりでした。

現在、日本には「トーマツ」「新日本監査法人」「あずさ」「あらた」という四大監査法人がありますが、日本を代表する四つの法人に、板垣さんはじめ、本校卒業の複数の先輩が仕事をしていらっしゃいます。
勉強している簿記会計を活かした仕事がしてみたいと考えている人、ぜひ調べてみよう！後輩の皆さんも先輩に負けずに、目標達成に向けて頑張ってください。

◆　３学期の進路行事予定　◆◆　◆◆　◆◆　◆◆　◆◆　◆◆　◆◆　◆◆　◆◆　◆◆　◆◆　◆◆　◆◆　◆◆　◆◆　◆◆

１月２７日　３年生による合格体験者発表会（１・２年生向け）
３月　９日　面接マナー講習会
３月１７日　企業紹介会（１・２年生向け）
◇２年生は進路指導部より冬休みの課題「志望理由書作成」があります。提出日が１月１４日です。
◇３月に実施する校内企業紹介会にはこれまで就職された企業を中心に会社概要から求める人物像など説明してもらう予定です。